

茨城空港周辺地域振興対策 特別委員会会議録

令和4年6月13日(月)午後1時30分
小美玉市役所 3階 議会委員会室

小美玉市議会

茨城空港周辺地域振興対策特別委員会

令和4年6月13日(月)
議会委員会室
午後1時30分から

1 開 会

2 委員長あいさつ

3 執行部あいさつ

4 協 議

①小美玉市まちづくり構想について

②その他

・議会報告会について

5 閉 会

出席議員（10名）

1 番	山 崎 晴 生 君	5 番	長 津 智 之 君
6 番	島 田 清一郎 君（副委員長）	8 番	村 田 春 樹 君
7 番	鈴 木 俊 一 君	11 番	谷 仲 和 雄 君
14 番	福 島 ヤヨヒ 君	18 番	市 村 文 男 君（委員長）
19 番	荒 川 一 秀 君（議長）	20 番	野 村 武 勝 君

欠席議員（1名）

16 番 大 槻 良 明 君

◇

付託案件説明のため主席した者

市 長	島 田 幸 三 君	企画財政部長	中 村 均 君
産業経済部長	矢 口 正 信 君	企画調整課長	長 島 正 昭 君
商工観光課長	秋 元 久 夫 君		

◇

議会事務局職員出席者

書 記 深 作 治

午後 1時26分 開会

○副委員長（島田清一郎君） こんにちは。

皆様おそろいになりましたので、ただいまより茨城空港周辺地域振興対策特別委員会を開会いたします。

最初に、委員長挨拶、市村委員長、お願いいたします。



◎開議の宣告

○委員長（市村文男君） 皆さん、こんにちは。

本日は大変お忙しい中、委員の皆様、執行部の皆様、本委員会にご参集いただきまして有難うございます。

また、文教福祉常任委員会の皆様には午前中に引き続きの会議ということで、ありがとうございます。

さて、本日の案件でございますが、過日、開催されました「まちづくり構想推進委員会」の報告を中心に現在の進捗状況について、執行部より報告をいただき、委員の皆様のご意見、ご要望等を拝聴しながら、進めてまいりたいと考えております。

是非、忌憚のないご意見をいただければと思いますので、よろしくをお願いいたします。

○副委員長（島田清一郎君） ありがとうございます。

続きまして、執行部挨拶、島田市長、お願いいたします。

○市長（島田幸三君） それでは、改めてこんにちは。県のほうに行ったときには、茨城空港を核とした賑わいづくりということで、小美玉市のそららと一緒に、空港周辺を一体化になって賑わいづくりをしたいということで、県の執行部のほうといろいろ議論をして参りました。今日はそららが中心になると思いますけど、空港のほうもできれば一体化という形で、議論を進めていただければ大変有り難いと思うんですけども、よろしくお願ひします。以上です。

○副委員長（島田清一郎君） ありがとうございます。

それでは、議事に入ります。

議事進行は、委員長をお願いいたします。

○委員長（市村文男君） それでは、早速議事に入りたいと思います。

まず、本日の議事についてですが、次第にありますように、小美玉市まちづくり構想についてということで、第3回の小美玉市まちづくり構想推進委員会の報告などについて執行部より報告をいただき、質疑やご意見をお聞かせいただければと考えております。

それでは、小美玉市まちづくり構想について、執行部より説明を求めます。

はい、よろしく。

○商工観光課長（秋元久夫君） 商工観光課の秋元です。

本日お配りしました資料は、第3回小美玉市まちづくり構想推進委員会で使用したものでございます。

資料として、小美玉市まちづくり構想基本計画（案）が資料1と、策定スケジュールが資料2、パブリックコメントの概要版が資料3になります。

それでは、空港周辺地域の活性化を目的に策定された小美玉市まちづくり構想の中の、そらら拡張にかかる基本計画の策定状況についてご報告いたします。

去る、5月24日に第3回まちづくり構想推進委員会を開催しました。

内容は、第2回委員会でお示ししました、そらら拡張の方向性、機能強化に向けた計画方針について、了承いただきました内容を基に、そらら拡張に向けた施設等整備計画、管理運営計画、利用促進計画、概算事業費について検討いただきました。

資料1の目次をご覧ください。第3回委員会では第4章40ページ以降を検討しております。そのため、1ページから39ページは前回委員会において検討した内容なので今回の資料からは省略しております。

検討・協議の主な項目につきましては、資料の40ページ目は、そらら拡張に向けた施設等整備計画が記されております。

62ページ目は、管理運営計画が記されております。

72ページ目は、利用促進計画が記されております。

77ページ目は、概算事業費が記されております。

まず、そららは地域の農と食から持続可能な地域再生を目指すための施設として整備されていることから、今回のそらら拡張ではこの地域の農と食から持続可能な地域再生を目指すというコンセプトは変わらず、さらに何度でも足を運んでもらえる施設として、体験型をベースとした施設の充実を図ることを考えとしております。

また、財源となる補助金や、民間活力の導入などについて、関係機関などと協議を進めながら、実際に導入する施設については、次年度以降に取り組む、実施計画、実施設計等で検

討していくこととなります。

そらの施設管理については、適切な時期を見計らい、指定管理者への移行を進めることとしておりますので、実施計画の段階で、市の財政面の負担を考慮しながら、指定管理制度の導入も視野に入れながら検討していくこととなります。

拡張エリアの土地の確保については、引き続き、全体的な感触を把握するため、地元関係者にご協力をお願いしていきます。

以上を、前回委員会でのご意見に対してのご報告をさせていただき、お配りしました資料案を示し、委員会の結果としましては、資料の案で大枠了承を得ました。

今後は、この案を基に、パブリックコメント実施及び結果を報告し、次回会議で確認していきます。

今回の拡張に向けた施設等整備計画について、説明いたします。

40ページをご覧ください。第4章そらら拡張に向けた施設等整備計画となります。

そらの機能拡張に伴い配置する新たな施設及び既存施設の機能強化について、導入機能別に整備計画を整理しています。

(1) 広場・展示機能につきまして、新たにそらのシンボルとして飛行機の展示をし、開放的な広場でマルシェ広場と一体的にイベント会場としても活用できるよう「あおぞら広場」を新設します。太陽の広場や体験広場は機能拡張します。

(2) 体験・交流機能につきまして、南拡張エリアにチーズ・ミート・地ビールの各種工房や農業体験を通じた体験農園を新設します。

(3) 飲食・物販機能につきまして、直売所や物産館などは機能強化を行います。

(4) レクリエーション機能につきまして、新たなレクリエーションの場として、BBQ広場を新設します。また、サイクリストの誘客効果を高めるためサイクルステーションを新設します。

(5) 情報発信機能につきまして、ウェルカムセンターやそららホールは機能強化します。

(6) エントランス機能につきまして、茨城空港アクセス道路からの視認性を高めるためエントランス広場を新設します。南拡張エリア駐車場からエントランスとして、そららロードを新設します。

(7) 駐車場機能・調整池機能につきまして、既存エリアに加え、南拡張エリアに機能拡張に伴う必要台数を確保し、新たに調整池も確保します。

なお、53ページの駐車場整備計画では、年間利用者数の平均値を基に、最大時利用者数を算出し、必要駐車台数を求めています。

現状台数152台が整備後台数は、既存エリア80台と拡張エリア240台の計320台となり、敷地外にあります臨時駐車場190台が拡張エリアに370台計画され、合計、現状台数366台から整備後745台になります。

以上の検討を踏まえ、計画地における総合的な施設の整備計画を示したものが、61ページのA3サイズの計画図になります。

次に、62ページをご覧ください。第5章そちら拡張に向けた管理運営計画になります。

管理主体及び管理体制の検討につきまして、今後、そちらが市民から親しまれ、地域再生拠点として存在していくため、適正かつ魅力的な管理運営を継続していく必要があります。施設整備については、基本的に本市が主体的に行うことを前提とした場合、現行の本市が管理運営する公設公営方式と民間が管理運営する公設民営方式の2つのケースがあり、そのメリットやデメリットを整理したので表になります。

そちらの管理運営の検討にあたっては、経年的に市の財政負担となっている施設運営を改善する必要がある、多様な利用者ニーズに柔軟に対応しながら、サービスの質を持続的に向上する必要があるなどを踏まえ、民間経営の感覚や視点が必要不可欠であり、管理権限を民間が保有し、柔軟に本施設の管理運営に取り組むことが可能な指定管理者制度を活用した手法が最も望ましいものと考えられます。

管理運営主体の検討として、行政と民間の共同出資による第三セクター、地域の農業生産者、商工関係者等によって組織された組合等、民間企業、NPO法人等の民間事業者から区分され、既存施設と一体的な管理運営を行っていく上で、速やかな管理運営主体の決定が望まれる、多様な専門的見地からの管理運営が可能で、地域に根差した施設として維持できる、社会経済情勢の変化トレンドやなどに迅速に対応した管理運営ができることなどが求められることから、指定管理者を提案型公募による組合等もしくは民間事業者の中から選定する方法が望ましいと考えられます。

維持管理計画については、事前の事業者サウンディング調査や具体的な事業提案を踏まえ、詳細な計画検討していくものとし、安全面や快適性等を十分確保するため必要な維持管理を行っていきます。

次に、72ページをご覧ください。第6章そちら拡張に向けた利用促進計画になります。

市民や茨城空港利用者など多くの方々に利用してもらうため、効率的かつ積極的なPRに努めます。PRの手法については、SNSやターゲットを絞ったプロモーションなど、多様な媒体を効果的に利用するとともに、市民や地域団体、関係機関等と連携で進めます。

次に、77ページをご覧ください。第7章そちら拡張に向けた概算事業費の算出になります。

総合施設整備計画に基づき、機能や施設を配置した場合の概算事業費を算出しておりますが、計画対象地における土地条件や導入する施設の規模や施設の仕様、資材や人件費の高騰等によって大きく変化するものであり、その後に検討する実施計画の段階で仕様を調整しながら検討するものとなります。

土木工事費、建築工事費、土地取得費、機体購入設置費、合計17億8,000万円になります。

以上が、第3回まちづくり構想推進委員会で審議され、大枠で了承いただいた計画内容でございますが、飛行機展示につきまして、事業費や今後の維持管理について、心配するご意見がございましたが、今回提示致しました計画で、パブリックコメントを実施することで了承し、パブリックコメントの意見等を踏まえ、第4回委員会で検討することになりますので、ご理解のほどよろしくお願いいたしまして、報告とさせていただきます。

説明は以上です。

○委員長（市村文男君） それでは、以上で説明が終わりました。

委員の皆様からご質疑等がございましたらお願いいいたします。

島田副委員長。

○6番（島田清一郎君） 空港のゲートエリア構想、飛行機の展示施設とかそういうをつくるのですが、県知事さんはやりませんかとかそういうことをおっしゃってましたけど、計画の変更はしなくても大丈夫なのでしょうか。

○委員長（市村文男君） 矢口産業経済部長。

○産業経済部長（矢口正信君） 今のご質問あった内容でございますが、小美玉市まちづくり構想を策定しておりまして、その中で4つの構想を定めております。その中に、Jフロント構想というような構想がございまして、これは自衛隊の広報をする機能と言いますか、建物をつくるというような計画でございます。ただ、これに関しては市独自の建設が難しいというふうに当初から思っておりまして、国や県に働きかけを行いながら、整備に向けて調整するというような構想になってございますので、これの建設にあたりましては、国、県と調整をしながら実現に向けていきたいと考えておりますので、今の段階で、まだ市で対応するかどうかという結論までは達しておりません。以上です。

○委員長（市村文男君） 長津委員。

○5番（長津智之君） 凄いい計画で委員会で承認されたと言いますが、17億のうちのだいたい概数でよろしいですが、当然今概数でしょうけど、交付金の内訳何と何があるのかお願い

いたします。

○委員長（市村文男君） 秋元商工観光課長。

○商工観光課長（秋元久夫君） 概算事業費については、78ページに土木工事費、建築工事費、土地取得費、機体購入設置費をそれぞれ内訳ということで記載してございますので、よろしくをお願いします。

○委員長（市村文男君） 矢口産業経済部長。

○産業経済部長（矢口正信君） 私のほうから補足をさせていただきます。皆さん今、78ページを見ていただいていると思います。先ほども説明させていただいたように、総額が17億8,000万円という概算事業費になってございまして、その内訳としては一番下のところになります。防衛省のまちづく支援事業から11億1,000万円、それに民間の活力導入といたしまして、補助の対象にならない部分が3億円、まちづくり支援事業につきましては、補助率が75%の充当になっておりますので、その裏負担、市の一般財源分が3億7,000万円ということで、財源を整備いたしました。以上です。

○委員長（市村文男君） 長津委員。

○5番（長津智之君） そうすると、防衛省まちづくり支援交付金だね、そうすると。これが入ってくるということだから、会計検査も当然入ってきますけど、それに対する費用対効果等の数字を聞かれると思いますけど、それはどのような案になってますかね。

○委員長（市村文男君） 矢口産業経済部長。

○産業経済部長（矢口正信君） 先ほどもちょっと触れたんですが、今回の基本計画においては、全施設全体を建設するにあたって概算事業付与を算出しましたが、そこまででございます。今後実施計画という計画を定めるわけですが、その中で費用対効果であったり、維持管理に要する費用等も含めて詳細な検討を進めて参りたいと考えておりますので、今回は概算事業費の算定までという計画になっております。

実施計画につきましては、今防衛省と整備時期について検討している段階でございまして、今年度はそちら拡張以外のそちら参道計画であったり、そちらの基本計画を策定して、そのあとに全てを網羅した実施計画を策定したいと考えております。以上です。

○委員長（市村文男君） 長津委員。

○5番（長津智之君） そのあと何年度に実施計画が入ってくるのか、ハッキリそこを。

○委員長（市村文男君） 矢口産業経済部長。

○産業経済部長（矢口正信君） 失礼しました。今の検討ですと、令和6年度あたりに実施計

画をやりたいと考えております。

○委員長（市村文男君） ほかにございますか。谷仲委員。

○11番（谷仲和雄君） 着座のまま失礼します。私のほうも財源の78ページのほうなんですが、補助事業活用のイメージの中で、総額17億8,000万円に対して防衛省の補助、そして民間活力導入、この25%にあたる市の一般財源の7,000万円という総事業費のイメージですが、実際に今度詳細な実施設計とかができたあとに、今度整備に入らる中で、この一般財源の出方、出し方ですね。これは一気に3億7,000万円という形ではないかと思うんですが、そこらへんのやりくりの中で、どこらへんから一般財源を引っ張ってくるかというところの、先の具体的な話になるのですが、例えば今積立っている中の基金類から充当するのか、それとあとは純粋な年間の予算編成の中の一財の中から充当していくかという、そこらへんのスタンスを確認したいと思います。よろしく申し上げます。

○委員長（市村文男君） 矢口産業経済部長。

○産業経済部長（矢口正信君） 今ご紹介いただいたとおりに、市の一般財源分というのは、裏負担25%さしております。こちらも今後どういった方法で調達していくかというのは再検討する必要がございますが、今の考え方では、起債を充当して一般財源による返済というのを検討しているところです。以上です。

○委員長（市村文男君） 谷仲委員。

○11番（谷仲和雄君） そうすると、起債を入れた3億7,000万円、感じで捉えていいんですかね。

○委員長（市村文男君） 矢口産業経済部長。

○産業経済部長（矢口正信君） 大変失礼しました。私の説明がうまくできていませんでした。起債を充当するという考え方で、それに対する利子分とか、そういうものは盛り込んでありませんで、単なるこれは建設費の裏負担というような表になっております。以上です。

○委員長（市村文男君） 谷仲委員。

○11番（谷仲和雄君） 一般的に建物とか大きい事業のときには、ここで言う国庫補助と、あと一財とその裏に起債部分が入ってくるかと思いますが、その起債のほうの前々からお話している合併特例債というのが新市建設計画のほうの終了にもう間もなくなります。それでこの合併特例債がない中で、よく公共施設関係の複合化とか集約化に対しては、公共施設等適正管理推進事業債というところの充当が可能ですが、多分そこにも中々当てはまらないかなというような感じを今受けてますので、そうすると一般的な必要な起債を入れていくよ

うな形になると思うと、交付税措置というところの今までのような有利な条件ではないというところがある中で、そういうイメージを今持っております。そのところ、財政の指標数のところにいくと、例えば健全化判断比率の4指標というのがありますけども、1番目が実質赤字比率と、次が連結実質赤字比率と、あと、公債費負担比率と将来負担比率、この4つがある中で、下の公債比率とか将来負担比率というのは、数字上は余裕は出るような計算の式になってます。要は合併特例債分がすっぽり抜けた形で計算しているので、例えば県の決算カードの出方と、市の決算カードの出方の中で、県の方が数字的には悪いけども、毎年度の実質単年度収支、そういうところのやりくりがきちんと今いっているんで、パッと見た感じ数字は県のほうが多分うまく振られて、数字のほうは大きく出ているけども、状況は多分県のほうが健全かなという見方をしております。そういうところで、要は実質赤字比率と、連結実質赤字比率、ここの数字が1回出はじめると、もう雪だるま式にどんどん増えていってしまうというそこが一番恐ろしいところで、そういうところはしっかり注意した中での金のやり方というのは、これは必要だと思います。そのことに対して中々産業経済部長だと難しいところなので、企画財政部長いらっしゃるので見解をお聞かせください。

○委員長（市村文男君） 中村企画財政部長。

○企画財政部長（中村均君） 今の谷仲議員のご質問にお答えさせていただきたいと思います。当然17億8,000万円という数字を捉えますと、小美玉市が今後まちづくりをしていく上ではかなりの金額となって参ります。市全体としてこれ1つだけ事業を行うわけではございませんので、この17億8,000万円の、更には市持ち出し分の捻出につきましては、今谷仲議員がおっしゃったとおり、市にとって危険な数値、データというものについては細心の注意をはらいながら、その中で最大限捻出できるものについては捻出していければというような感じで、今谷仲議員からご指摘いただいたようなところを無視してということではなくて、もうそこを死守しながら財政の健全運営をはかって参りたいと考えております。以上でございます。

○委員長（市村文男君） 谷仲委員。

○11番（谷仲和雄君） そのところ、同じイメージの中で、民間活力導入の各工房ですね。それでこういう施設って、そこでしか食べれない、そこでしか買えない、あと体験型とかそういうコンセプトで、要はわかり易く言うと今後のという言い方ですね。そういう位置付けで成功しているところってこういう必ず売りです。売りっていうのがしっかりあることが成功の要件の中の1つだと思います。ここの各工房、チーズ、ビール、ミート、ここの民間活

力導入のこの3億円のスキームの中の位置付けというか、捉え方を簡単な説明で結構なんで、お聞かせいただければと思います。

○委員長（市村文男君） 矢口産業経済部長。

○産業経済部長（矢口正信君） 資料41ページの中で、各種工房についてはご説明をさせていただいております。まず、41ページでは、チーズ工房の整備概略としまして、今谷仲議員からお話がありましたとおり、どういうところで特色を出せるかというところが一番重要だとは思われます。その中で、小美玉市の生乳を使って新たな特産品を作りたいというのがこのまずはチーズ工房でございます。

次に、42ページで、ミート工房ということで書いてございますが、小美玉市養豚、養鶏、酪農ということで、畜産が盛んではございますので、そこの精肉を使って新たな特産物というような概略になります。最後に地ビールとしまして、ミート工房なんかと一緒に作成すれば魅力が増すのではないかとということで、地ビールも見込んでおります。こちらについては、新たな事業と言いますか、麦とホップなんていうのも生産をしながら、新たな産業としておこしていこうというようなコンセプトで企画化したものでございます。こういったものを、他の産地と差別化をはかりながら、魅力あるものにつくりあげていきたいということで、民設民営ということで、民間の活力を引き出せるような、そちら拡張計画をつくって参りたいと考えております。以上です。

○委員長（市村文男君） 谷仲委員。

○11番（谷仲和雄君） 私の質問の仕方があれだったと思うんで、もう一度すみません。

この17億8,000万円の中の3億円という、ここの金額ですね。これは各工房をここのところは民間活力導入ということで、民間が出すような捉え方でいいのか。それと例えば、もしこの場合防衛省の補助を受けるときに、こういう形で、はいOKというのが出るかどうかということまでは多分裏どりはされているかと思いますが、そここのところがひっかかりませんで、お願いします。

○委員長（市村文男君） 矢口産業経済部長。

○産業経済部長（矢口正信君） 失礼しました。78ページの中で、ちょうど真ん中ぐらいのところ、②の建設工事費という中で、チーズ工房、ビール工房、ミート工房につきましては、先ほどざっくり説明させていただいた内容で規模を定めまして、それで標準的に1箇所1億円ということで、合計3億円の事業費を計上しているイメージでございます。この民間活力導入部分については、防衛省のまちづくり支援事業交付金の補助の対象にならない施設とい

うふうに今のところ防衛省との調整の結果、補助の対象とならないというふうになっておりますので、このような事業費の構成を想定しています。以上です。

○委員長（市村文男君） 谷仲委員。

○11番（谷仲和雄君） そうすると、このスキームの図でいうと、補助対象費14億8,000万円、かっこ下にあるのを除いて11億1,000万円で、この3億円分が補助金対象外というところ。そうすると民間活力導入というのは、そららの拡張計画の一貫の中で、例えば市の財源の枠組みでやる3億円というその認識ですか。市全体でこの額でやります。ここのチーズ、ビール、ミートというところ、今度運営していくにあたって民間活力を導入しますという捉え方なのか。全部市が使ってから、そこを運営するのは民間の部分にしますという捉え方か、最初からここの部分は民間のほうに投げますという、そのところを確認いただければと思います。

○委員長（市村文男君） 矢口産業経済部長。

○産業経済部長（矢口正信君） 谷仲議員ご指摘のとおりでございます。この施設全体をつくるとなると、17億8,000万円というイメージでございますが、先ほどの3工房3億円につきましては、民設民営という考え方でおりますので、市といたしましては、この14億8,000万円、こちらで各工房が建てられるような土地は用意しますが、上物と言いますか、工房の設備につきましては、民間活力を導入したいというふうに考えておりますので、市が整備する分というのは、この14億8,000万円分というようなイメージでございます。以上です。

○委員長（市村文男君） 谷仲委員。

○11番（谷仲和雄君） これでだいたい大枠としての活用のイメージのところをだいたいわかりましたので、あとは前段お話ししました企画財政部長の答弁のほう、そのところは、今後一番そのところは、よく見ていかないといけないかなと思っております。以上です。ありがとうございました。

○委員長（市村文男君） 荒川議長。

○議長（荒川一秀君） 私のほうから一言ですけど、まちづくり委員会私2回出ているんですよ、副委員長と一緒にね。これは前市長の代からの流れですよ、構想。そのために委員会をつくって諮問機関でやっていると思うんですけども、私もその席にいたんですが、正直言って私は議長はそういう委員会にいないほうがいいんだろうという考えです。今日は議会の場ですから、どっちを優先するのか、こっちは議決権の問題だよ。委員会はいいものをつくってもらって。この前の委員会の中のことをお話しますが、チーズ工房はダメじゃないか

と、飛行機は展示しても意味がないんじゃないとか、そういうふうな意見も出されているんですね。それも継続性の前市長の考えだから、新しい市長さんと話をしてじっくりやったのかということをおはの間言ったと思うんですよね。そうしないと今から実施計画6年からはじまるというのであれば、2年間の間にきっちりやらなかったらば、これは政治生命に係る問題だと思うんです。私は委員会内でみんなの意見を聞いてまとめる役なんだよね。そこでは私はしゃべるわけではないんですが。とにかく議会は議会でいろんなところ研修したり、勉強したり、委員会委員ですよ。ところがやっぱり公設民営だよね。そういうふうなシステムがね。それから工房の11億も魅力的だ、しかしそればかりでは成り立たない部分があると思うし、市長によくもう1回市長、執行部で言ってくださいよ。そうしないと議会が割れますよ。私はそう懸念しますので、よろしくお願ひしたいなと思います。

○委員長（市村文男君） 福島委員。

○14番（福島ヤヨヒ君） 計画今一生懸命立ててというところだと思いますが、私はさっき谷仲さんがおっしゃった民間交流施設として、ミート工房これは美野里がハム工場を作って失敗という言い方がいいのか、撤退と言ったほうがいいのか分かりませんが、そういうことをしました。実は私の夫のすぐ上の兄が東京でハム会社をしております。小さな町工場ですが、そこで各自治体がつくって研修制度を、大手はそういうものを引き受けませんので、研修生を何回かいろいろ引き受けて研修3ヶ月とか4ヶ月させたことがあるという話を聞いております。中身も聞いておりますが、まず、成功はしておりません。北海道のある施設が、どうしても成功させたいからと言って、兄のところ丸ごとなんとかして欲しいと10年間手を入れてきましたけど、また戻しましたが非常に難しいです。つくばハムとかいろいろつくってますけれども、研究に研究を重ねても、市民が望むハムはまずできませんとハッキリ兄が言っておりました。こういうものに手を出すのは非常に難しいな。ほかのチーズとか、ビールについては、私は何も語れませんけれども、これはハムの関係については義理の兄からよく話を聞いていたので、どういう状況で、誰がどうやってやっていくのかとそういうところまでしっかりしていかないと、まず、失敗するということは分かっております。私聞いてきてほんとに職員の方が実際にその担当になって研修に行ってやってきたけれども、やっぱり手に追えなかったというのが現実です。だからほんとに誰かが必至でやるんだという意思のある人を連れて来ればいいんですけど、じゃないと安易にこういう施設をつくっても、難しいんじゃないかなという気はしております。これは私の単なる感想かもしれませんが、でも、こういうものに公費をつぎ込むことに対して、もう1歩踏み込んで真剣に考えていかな

いと、あとで失敗しましたとって済む問題ではないと思いますので、そこらへんをどのくらい腹をくくって皆さんが計画立てていらっしゃるか、しっかりと議論を重ねていただきたいなと思います。これは私の単なる感想かもしれませんが、よろしくお願ひします。以上です。

○委員長（市村文男君） 谷仲委員。

○11番（谷仲和雄君） さっき福島議員の発言で、私の意図するところと逆の、意図するところが私の伝えている部分とちょっと違うんで、もう1回私のほうから言いますね。この施設に関して、チーズ、ビール、ミートというコンセプトで、例えばそういう施設の中で、そこに行けば手に入る、そこに行かなければ手に入らない、そのクオリティですね。さっき言った本物というそのこのところ。そのこのところをしっかりと詰めてこれからやっていくにあたって、要は施設の集客において、このこのところがないと人は集まりませんよという意味でお話したので、やっても失敗するからという今の言い方とは真逆ですから、そのこのところだけ私のほうから念を押して言います。この補助事業のこのこの枠の中で、そのこの施設に行かないと、そのこのところのクオリティをどうやって追及していくか、もう時代背景の中で、例えば、そのこの本物思考という中で、安ければいいとか、量があればじゃなくて、例えばほんとにそこに行って欲しい物があれば、価格帯が高くて買える人はいるし、そういうコンセプトをしっかりと持った中での取り組み方ですよ。それがこれから大事になってくるのかなと。私はこのこのところ否定する意味で言うてはおりませんので、そのこのところだけ履き違えないように執行部の方にはお願ひしたいと思います。そのこのところです再度お話をさせていただきました。以上です。

○委員長（市村文男君） 山崎委員。

○1番（山崎晴生君） 今いろいろ計画を見させていただいて、多分地域住民とか実行委員の方とか、凄く夢の詰まった、各このエリアを見てもこういうことやったらいいんじゃないか、ああいうことをやったらいいんじゃないか、夢と希望が凝縮されているとは思いますが、このそららをリニューアルするにあたって、市としてはどこが一番目玉というか、肝になってくるようなイメージなのか、ご説明いただければと思います。

○委員長（市村文男君） 矢口産業経済部長。

○産業経済部長（矢口正信君） そららがオープンしてから、これまでの営業している中での反省というか、なかなか長い時間滞在できないような施設なんではないかという指摘をいただいております。そのため、そもそもそららというのが、小美玉市の食と農をPRしていく

施設ということでございますので、その食と農を楽しく体験しながら長い時間滞在できるような施設を目指していきたいというふうに考えております。そのため、61ページの表を見ているのですが、既存の施設に隣接した部分に、バーベキュー広場であったり、ちょっと上のほうにいくと、体験広場であったり、今のミート工房、チーズ工房、地ビール工房とかを配置して、長い時間体験などで楽しめる施設というのを市のほうはつくりたいと考えております。それともう1つが、これは開業してからの課題というのは、現在駐車場はそらの敷地内と、ちょっと離れたところに臨時駐車場を設けておりまして、その臨時駐車場が比較的歩いて時間がかかるということから、駐車場の拡張というところを強く要望されておりましたので、その駐車場を近くに確保するというふうに、今の2点を重点的にこの計画をつくっております。以上です。

○委員長（市村文男君） 山崎委員。

○1番（山崎晴生君） 詳細にありがとうございました。長時間滞在できることはすごく大事なことだと思うんですけども、現状でいくと太陽の広場のところですかね。ここで子どもたちが遊んでもせいぜい1時間ぐらい遊ばせると飽きちゃうというところもありますし、これだけの設備があれば一日体験しながら、バーベキューを楽しみながらというところではあると思うんですけど、プラス空港周辺の活性化ということを考えると、ここだけを活性化したとしても、ここだけで集客するところだとなかなか平日とかこういったものって難しいと思いますし、なおかつ茨城空港をもっと良くと考えるのであれば、一体的に考えていかないといけないんじゃないかなと感じるところもありますし、莫大に予算に係るものと思いますし、チーズ、ビール、ソーセージのほうも。チーズとソーセージまではなんとか分かるんですけども、ビールは小美玉になんのゆかりもないと思いますので、どっちかというところのほうが有名なのかなとは思いますが。もうちょっと小美玉の名産をグランディング化できるような、今、既存にあるのをしっかりとグランディングできるような施設であってほしいなと思います。以上です。

○委員長（市村文男君） 鈴木委員。

○7番（鈴木俊一君） 今のそらの在り方についての評価はどういうふうに考えていますか。うまくいってるとか、評価をどういうふうに行っているのかというのを伺いたいのですが。

○委員長（市村文男君） 矢口産業経済部長。

○産業経済部長（矢口正信君） 先ほどの回答と少しだぶる部分もございますが、そららというのは、小美玉市の食と農を紹介していく施設ということで、この中で直売所であったり、

レストランであったりというものを整備しております。来場者数も順調に伸びておりましたが、ここ2年というのは皆さんも状況お分かりだと思います。その中で、小美玉市の観光であったり、PR施設としてある程度魅力ある施設になっているのではないかと考えております。ただ、先ほど申しましたように、更に市民もそうですが、交流人口を増やしていくには、課題もあるということが事実でございますので、そのへんを整理した上で、より魅力的な施設にしていきたいと考えているところでございます。以上です。

○委員長（市村文男君） 鈴木委員。

○7番（鈴木俊一君） 今、魅力があって伸びてきていると。それを更に魅力度をアップさせるということで、集客はこの2年は抜いて考えて順調にきていると。それを更に魅力度をアップさせるというふうな認識でよろしいですか。そうすると、この2年間のことは別にどうのこうのというわけではないんですけど、更に魅力度をアップさせると言ったときに、今の状況ではあんまりかんばしくないから、てこ入れするのかなというイメージで捉えちゃうような感じがしたんです。平日なんかは2年前です。この2年間を抜いてのお話ですが、そういうのはなかったと。だからそこを今やってきたのでは集客をもっと増やしたいとか、もっと魅力度アップさせたいということで、やるのかなという感じで、私のうまい言葉が見つからず、うまくいかなかったところ改造してもうまくいかないと思うんです。ただ、うまく伸びていたところを更にこういうのをつくればもっと伸びると思うんです。そのときに、小美玉市に何ができるということを提供できるというよりも、どういうのを皆さんが望んでいるかという市場調査、マーケティングはなんかはどういうふうに行っているかというのを聞きたいのですが。

○委員長（市村文男君） 矢口産業経済部長。

○産業経済部長（矢口正信君） 今回皆様に配らせていただいた資料1というのが、基本計画の（案）になるんですが、これというのは冒頭に説明しましたとおり、前回の特別委員会で報告をさせていただいた以降の説明になっておりますので、実はその前段で、そちらに求められているものとか、評価の部分をアンケート調査を実施しまして行っております。現状施設における課題の抽出ということで、アンケート調査をやって866名からの回答をいただいております、それで統計をとっております。以上です。

○委員長（市村文男君） 鈴木委員。

○7番（鈴木俊一君） ある程度調査はあったと思いますが、需要といっても需要がどれだけあるかというときに、有効需要とただ単に欲しいなという需要はまた違うような気がするん

です。みんなアンケートの場合には簡単に、こういうのがあったらいいなというニュアンスで書くことを書いていると思うんです。ただ実際に自分がお金を出したり、その場に行ってみたいという需要、ほんとにだから例えば極端な例かもしれませんが、今飛行機が欲しいですかと言われてたら欲しいとアンケートに書くと思うんです。ただ、実際買うとしたら10億円、100億円ですよとってそれをお金を払える人だったら有効需要で需要があると思うんですけど、ここで言えばこういう施設があったほうがいいと言った、あとは市場でこういうお店、工場をつくりたいと言われても、実際にお金を出すかどうかというのは、アンケート調査では見えないようなそういう市場調査もただ単にアンケートというよりも、お金を出してまで、また小美玉市にそういうのがあったら行きたいというような施設かどうかというものかどうかが大事になってくると思うんです。ただ単にこういう工場があったらいいなというレベルなのか、ほんとにお金を出してまで行きたいというところを考えていただきたいなということで、そんなときお金出してもきたいというのだったら、是非こういうの進めていったほうがいいと思いますし、新しい島田幸三市長になっての、これから5年ぐらいかけてやるときに、先ほど言った政治生命に係る。もしこれでお客さんがらだたらってときに、市長の政治生命に係っちゃうような大事な問題だと思うので、もう1度じっくりよく検討して、ほんとにみんなに喜ばれるものができたらいいなと思いますので、そのへんのほうよろしくをお願いします。以上です。

○委員長（市村文男君） 村田委員。

○8番（村田春樹君） 52ページの、人道線計画図が大きく書いてあるんですけども、そらら拡張という形だからこういう動きの感じの線にはなっていると思うんですけども、実際に委員会というのは、そらら拡張、そらら参道、エコトープ、Jフロント、4つに関してやっているんですけど、参道とか、エコトープとかそこらへんの青写真的なものがあるわけじゃないですか。それを含めた人の流れ、動きというのはどういうふうに考えてるのかなど。これ自体で完結してしまってるのか、それともちゃんとそこらへんまで考えて人の流れ、動き、そういったものを把握しているのかお聞きしたいと思います。

○委員長（市村文男君） 矢口産業経済部長。

○産業経済部長（矢口正信君） 只今ございました52ページの内容というのは、議員おっしゃるとおりでございます。そららの拡張部分の人の動きでございまして、令和3年度から策定しておりますこの基本計画においては、そらら拡張という部分だけを計画したものですので、こういう動きになっております。ただ、まちづくり構想の中では4つの構想がございまして、

当然先ほど市長からもありましたとおり、そららと茨城空港を、これまでより強い繋がりを持たせて、お客様に来てもらうという考え方、これは当然でございますので、できれば今年このそららの参道構想とエコトープ構想、ここの基本計画を策定して、そらら拡張とあわせて令和6年度に詳細な実施計画を策定したいというふうに考えておりますので、その実施計画の中では、そらら拡張構想、そらら参道構想、エコトープ構想、この3つを連動させたいと今のところ考えております。以上です。

○委員長（市村文男君） 村田委員。

○8番（村田春樹君） ありがとうございます。3つ連動させて考えているということで、先ほど皆さんが心配しているように、これ確かに失敗したら政治生命に係る大事なこともかもしれないんで、皆さん一丸となってやっていかないといけない、進めていくならやっていかなければいけない。それも島田市長の考えもいろいろあるでしょうけれども、先ほど島田市長のほうからご挨拶で言ったように、進めていくということですから、全てを成功させなきゃいけないので、そのへんしっかりとお願いします。以上です。

○委員長（市村文男君） 福島委員。

○14番（福島ヤヨヒ君） 私は主婦の立場で、体験して物をつくったりとかすごくいいことだと思っております。まずは、食と農のあそこが核になるんだというのであれば、私はあそこ体験型で前から近隣の農家さんと手を繋いで、まずは摘み取りとか、収穫の喜び、それを味わう体験ができて、帰りにあそこでイチゴジャムができた、ブルーベリージャムができた、大根の料理ができたというそういう流れの中から、ここに来るといろんな体験ができるんだなって、ここの売店で同じ物が買えるんだなという、その意識を持たせることがとっても大事なとずっと思っていたんですけど、そうすればそんなにお金をかけないで今すぐにもできる。今すぐあそこの中でできることをやりながら、次の計画の中できちんとした工場を建てたりなんかしながらの体験に発展していくという繋がりを持たないと、建物ができるまで待っているのかということにもなりますから、そういう流れの中から体験の楽しさ、食の楽しさ、それをすぐにでもできることからやっていくというのがまちづくりの基本になつくんじゃないかなという気がするんですけど、そういうところの話合いもこの中にちゃんと入っているんですよ。私は理解してもらいたいなと思って、今すぐできることからまちづくり、きちんとした計画、立てるのは計画ですけど、今できるまちづくりをできるというのが、私が今申し上げたように、今すぐにもブルーベリーの時期だから、摘み取りはこの農家さん斡旋しますよ、摘んだらブルーベリージャムつくるにはこういうことがありますよ

っていうことを実践させてくれる場所としてあのそららがあつたらもっとみんなが行くのかなという気がするんですけど、そういうことがこれまでに話し合いの中に出たことはなかったんでしょうか。そこらへんだけお聞かせください。

○委員長（市村文男君） 矢口産業経済部長。

○産業経済部長（矢口正信君） 確かに、この基本計画を策定していく中で、こういう機能を持たせようという議論が中心でございましたので、今の施設を一度改良してというような議論というのはこれまでされておられません。できることいろいろヒントをいただきました。農家を斡旋するとか、そういったこともありますので、そのへんできることは検討はいたしますが、これまでというのは主だった議論というのはされておられません。以上です。

○委員長（市村文男君） 福島委員。

○14番（福島ヤヨヒ君） 今すぐできることから始めていって、それが将来に繋がっていくところという、そういう絵をもうちょっと書いていただけたら、下絵をね。今やれることが基本になるんだという考え方も入れて、すぐに実践できることはしていただけたら、まちづくりもっと活発になってくるのかと。既存の部分ではなくて、実際にこうなっているところを実践しながらまちづくり進めていけたらといいかなと私は思っていますので、その点よろしくお願ひしたいと思います。以上です。

○委員長（市村文男君） ほかにございますか。

〔「なし」と呼ぶ声あり〕

○委員長（市村文男君） 皆さんで、そういう意見を出していただければ、この委員会でやっていければと思います。

先ほどから政治生命の話がでました。島田市長の意気込みをお聞きして。

島田市長、お願いいたします。

○市長（島田幸三君） 正直申しまして、よく精査していないんです。これからいろんな先ほどの諮問機関の委員会の意見等、あるいはこの委員会の皆さんの意見等を踏まえながら、私一人ではないんですけど、皆さんと協議しながら進めていきたいと思っていますので、よろしくお願ひします。

○委員長（市村文男君） 島田副委員長。

○副委員長（島田清一郎君） そらからは、はずれてしまうんですけど、空港線できているんですけど、空港線を少し景観があまり良くないような気がするんですよ。高速道のほうにいくと筑波山が見えてきて茨城空港が出てくるんですけど、海外とか茨城空港に来るお客

さんがきたときに、空港線の環境美化というか、花いっぱい運動でもいいんですけど、あるいは桜並木をつくるとか、そういう景観を美化するような、市ぐるみでそういう構想もいたけると有り難いなと思うんですが、どうでしょうか。

○市長（島田幸三君） 考えます。

○委員長（市村文男君） 福島委員。

○14番（福島ヤヨヒ君） 島田市長さんが県議会議員でいらっしゃったときに、茨城空港の駐車場の件でお願い、実は連休のはじめのころにうちの娘が北海道から来るのに夫が迎えに行きました。駐車場をいくら探してもなかったから警備員の方が道路のところでハザードランプ付けて待っててくださいと言われてました。ところがその日大雨が降りまして、積乱雲が発生しまして娘家族が乗った飛行機が2回着陸試したんですけど、ついに着陸できず、タッチアンドゴーのまま羽田に行きました。その間全然連絡がもちろん飛行機の中だから連絡できなかったのも、私のところに電話きたからカウンターに行って聞いてきなさいよと言って聞きに言ったらそういう状況であって、それでもう帰るからと言ったけど、そのときにうちの車だけではなくて、4、5台車が並んでいたそうです。それに雨がザーザー降る中こういう状況でもう飛行機下りてこないよという話をしたので、あのときに駐車場に駐車していて、中にいれば様子が分かったんですけども、それも分からなかったと。どうしてこんなに駐車場に止められないんだと怒って帰ってきましたけれども、せめてお迎えに行った車がどこかに止められるような、しかも凄い大雨、いつのことかご存じかもしれませんが、大雨で簡単に降りてカウンターまで行くのも大変なような天気だったので、駐車場もなんとかするようになって県のほうに言っていただけたら有り難いなと思っていますので、よろしくお願ひします。

○委員長（市村文男君） それでは、他に質疑やご意見がないようですので、終わりにしたいと思います。

この後は議会報告会についてとなりますので、執行部におかれましては散会としたいと思います。お疲れ様でした。

（執行部退席）

○委員長（市村文男君） 次に、今年の議会報告会は、昨年に引き続きコロナ禍により中止となりました。昨年と同じように報告内容をまとめてホームページ等でお知らせすることになっております。当委員会において、これは議会報告会において報告した方が良いというものがあれば、ご提案いただきたいと思います。

【報告会について協議】

（「委員長、副委員長に一任」の声あり）

○委員長（市村文男君） ただいま、委員長、副委員長に一任との声がありました、お任せ
いただいてよろしいですか。

（「異議なし」の声あり）

○委員長（市村文男君） それでは、みなさんから、その他の件で何かあればお願いいたし
ます。

（「なし」の声あり）

○委員長（市村文男君） それでは、他になれば、協議を終了いたします。
副委員長と交代いたします。



◎閉会の宣告

○副委員長（島田清一郎君） それでは、以上で茨城空港周辺地域振興対策特別委員会を閉会
いたします。

ご苦勞さまでした。

午後 2時41分 閉会